

2025 年度 特待入試

第 2 回

国 語

[注意事項]

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 下敷きおよび電算機つきの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は、濃くはっきりと書くようにしてください。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず、手を触れないでください。
- 6 試験中はよそ見をせず、きちんとした態度で行ってください。
- 7 何か物を落としたら、黙って手をあげてください。
- 8 他の受験生に迷惑となるような行為をしないでください。

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

群れるのはカッコ悪いとして孤高ここうを気取ったかつての若者たちと違って、今どきの若者はやたら群れる傾向がある。ただし、絶えず群れている若者たちも、決してポジティブな気持ちで群れているわけではないようだ。

人間関係の悩みを抱える学生たちの話を聞いていると、仲間グループの同調圧力を苦痛に思いながらも、そこから抜け出す覚悟ができないもどかしさを強く感じていることがわかる。

A 「自分を押し殺して、人を笑わせたりしてムードメーカーに徹してるけど、ストレスが溜まる」

「こんな窮屈きゅうくつなつきあいはいもうイヤだって思って、爆発ばくはつしそうになることがある」

「こんなグループづきあいは意味がない、こんなのほんとの友だちじゃない、もっとホンネでつきあえる友だちがほしいと思うのに、仲間グループから抜ける勇気がない」

「その場にいるときは無理に合わせるから、気持ちが消耗しょうこうし疲れ切ってしまう、家に帰って一人になると、こんな不毛Bなつきあいからはもう抜け出そう、ちょっと距離を置こうって思うんだけど、翌日になるとまたみんなと一緒にいる自分がある」……

無理に合わせるだけ。無理に笑う欺瞞きまん。グループの息苦しさを感じる。でも、グループから抜けると孤立してしまい、居場所がなくなる。そう思うと怖こわくなり、我慢まんして虚しいつきあいを続けている。このような趣旨しゆしのことを口々に言う。

同調圧力によるストレスは、けっして最近になってクローズアップされるようになったわけではない。このような声はけっく前からあったのだが、SNSの進化により、グループの同調圧力が、一緒にいないときまで強烈に襲おそいかかってくるようになったことが大きい。

対面でのつきあいが中心の時代なら、いくら学校や職場で仲間グループの同調圧力に苦しめられても、その場を離れば解放された。イヤな人間関係、無視できない世間の鬱陶うつとうしい人づきあいも、その場だけ我慢すればよかったし、時間的にも少し我慢すればよかった。別れれば自由になれた。

ところが、SNSのせいで、今は別れてからもメッセージが入ってくるし、家にいても入ってくる。メッセージを読むと既読がつくから、即座に反応しないといけない。逆に、既読がついたからこっちのメッセージを読んでいるはずなのに何の返答もないと、怒らせたのでは、気に障さわったかな、嫌きらわれたのかも、などと気になって仕方がない。

このように、一緒の場を離れても、通学・通勤途上でも、帰宅後も、どこにいても、どんな時間でも、仲間グループのネットワークから解放されることがなくなった。みんなの目から自由になれない。みんなの目が日常生活の至る所に遠慮なく侵入しんにゅうしてくる。

SNS利用者の多くは、仲間グループのメンバーたちの気持ちを傷つけないように気づかったり、こちらのことをどう思っているのだろうと気にかけたり、こちらにどんな反応を期待しているのだろうと相手の意向を読んだりしていなければならない。そこでSNS疲れという言葉もよく耳にするようになった。

SNSには、他の人の考えや行動が見えるようになって気になるし、こちらの考えや行動も他人に見えるから気になるというように、^④両方向からの息苦しさがある。みんながどうしているかが気になる。また、こっちのことをみんながどう思うかが気になる。常に監視^{かんし}されているような気持ちで、気が休まらないわけだ。そのように気をつかうばかりで、自由にものを考えることがしにくくなってしまっているのである。

(中略)

第二次世界大戦中に、戦後の日本統治のヒントをつかむために、日本人の行動パターンを探るべく日本文化の研究を行い、『菊と刀』という日本人論を著した文化人類学者ベネディクトは、西洋人にとってもっとも驚くべき点は、順応と受容が目下の者から湧き出るのであって、目上の者から命じられて順応したり受容したりするのではない、とみなされていることだという。

ベネディクトによる指摘^{してき}をここでの文脈に沿って言い換えると、つぎのようなことになるだろう。

欧米社会では、上位者の命令によって、下位の者は仕方なく従ったり受け入れたりする。文句があっても、上位者が権力をちらつかせて有無を言わさぬ強制力を行使するため、下位の者はやむを得ず服従する。

それに対して、日本社会では、上位の者が強制力を発揮して押しつけるようなことをしなくても、下位の者が自ら率先して上位者の意向を汲み取って動くようにする。それが欧米人には理解できない。

新型コロナウイルスの感染爆発による行動規制に際しても、海外では違反^{いはん}したら罰金^{ばつぎん}を科すといった強制力が必要不可欠であったのに、日本ではそうした強制力なしに国民の自粛^{じしゅく}に任せて大丈夫だったことは記憶に新しいはずだ。

命じ、罰^{ばつ}をちらつかせて押しつけることなしに、なぜ上位者の思うように下位者を動かすことができるのか。命じられ、罰をちらつかされて押しつけられることもないのに、なぜ下位者は上位者の意向を自ら汲み取って動いたりするのか。^⑤そこところが欧米人には理解できないのだ。

いずれにしても、そうしたお上^{かみ}に任せておけば大丈夫、あるいはお上の意向に従っていればいいという態度は、一種の思考停止でもある。海外では、政府の方針に納得できないときなど、暴動が起きて大変な騒ぎ^{さわぎ}になるが、日本ではそのような暴動がほとんど起こらない。多くの国民は、理不尽^{りふじん}さを感じつつも我慢してしま

う。
それを寛大^{かんだい}さとか忍耐強^{にんたい}さといったポジティブな性質に結びつける見方も成り立つだろうが、それは間違いなく思考停止^{ちようてい}の徴候^{ちようこう}と言える。

自分で考えて判断するのは、面倒なのは確かだし、「お任せ」にする方が楽かもしれないが、自分で考え判断するのを放棄^{ほうし}してしまったら、まさに思考停止である。

榎本博明『思考停止という病理』より

* ポジティブ……積極的。

* 欺瞞……あざむき、だますこと。

* SNS……ソーシャルネットワークサービスの略。LINEやインスタグラムなどのインターネット上で交流できる仕組みのこと。

問一 ――部 A・B の本文中の意味として最も適するものを、それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 「自分を押し殺して」

- | | |
|---|---------------|
| ア | 自分らしさを大切にして |
| イ | 自分に強く言い聞かせて |
| ウ | 自分の気持ちをおさえて |
| エ | 自分の考えを言葉にしないで |

B 「不毛な」

- | | |
|---|------------|
| ア | 表面的でつまらない |
| イ | 思うようにならない |
| ウ | おだやかでいられない |
| エ | 何の進歩も成果もない |

問二 ――部①「仲間グループの同調圧力」とは、結果としてどうすることですか。その説明として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 仲間グループから抜け出す勇気を持つとすること。

イ ホンネではなく、その場に合わせたふるまいをすること。

ウ 仲間とのつきあいに息苦しさを感じて爆発しそうになること。

エ もっとホンネでつきあえるほんとの友だちがほしいと思うこと。

問三 ――部②「我慢して虚しいつきあいを続けている」のはなぜですか。本文中の言葉を用いて三十字以上四十字以内で答えなさい。

問四 ――部③「グループの同調圧力が、く襲いかかってくるようになった」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適するものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア いつでもどこでも仲間とつながり、まるで監視されているようで自由になれなくなったということ。

イ 仲間と離れてからも、悪意あるメッセージばかりが頭に残り、苦しめられるようになったということ。

ウ 仲間グループから離れたあとも、解放されることがなく、その人間関係を続けていったということ。

エ 仲間と別れたあとも、メッセージのやりとりを通じて仲間とのつながりを実感できるようになったということ。

問五 ――部④「両方向からの息苦しさ」とは、どのような状態ですか。六十字以内で説明しなさい。

問六 ――部⑤「そのところが欧米人には理解できない」とありますが、欧米人が理解できないのは、どのようなことですか。その説明として最も適するものを、

次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 欧米社会では、上位者が下位者に命令を出す前から動き始めるため、日本社会のように、上位者から命令が出ないと下位者が動けないということが欧米人には理解できない。

イ 欧米社会では、上位者が下位者を押さえつけようと罰を与えて従わせるため、日本社会のように、下位者がどんな罰でも受け入れようとするのが欧米人には理解できない。

ウ 欧米社会では、上位者も下位者も自分の考えにしたがって行動するため、日本社会のように、下位者が上位者の言うことにだまって従おうとするのが欧米人には理解できない。

エ 欧米社会では、上位者が強制力をもって下位者を従わせるため、日本社会のように、下位の者が率先して上位者の意向を汲み取って行動することが欧米人には理解できない。

問七 次に示すのは、本文について話す生徒同士の会話です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

生徒A 筆者は、今どきの若者がみなに気をつかうばかりで自由に物を考えられなくなっていると言っているね。

生徒B わかる気がするな。私も友だちの投稿^{とうこう}について「いいね」を押してしまう。本当は「いいね」なんて思っていないのに。

生徒C 日本人は、強制されなくても自分から命令に従おうとするようだね。たしかに、日本に大きな災害が起きた時、日本人が整然と列を作って順番を待つ様子は、すばらしいと世界でも評判になったそうだよ。

生徒A 私はそうやって周囲の人に気をつかって行動する日本人はすばらしいと思うけれど、筆者はそう考えていないみたい。

生徒B そうだね。筆者は、お上に「お任せ」という態度は日本人の思考停止を招くといって、あまりよく思っていないようだね。

――部「お上に『お任せ』という態度」とありますが、このような態度を取ることにについて、あなたは賛成ですか、それとも反対ですか。あなたの考えを理由とともに述べなさい。

二 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

大学生の頃に京都の田舎で、3畝ほどの小さな田んぼを借りて無農薬の稲づくりをしていた。数人の有志で、車で2時間ほどかけて時々田んぼに行って、その近くにある小さな小屋で寝泊まりして農作業するというもので、田んぼは農家の人から無償で貸してもらっていたので、今考えるとずいぶんと恵まれた体験をさせてもらっていたものだ。そこに集う人々は、学生と、ちょっと怪しげなお兄さんと、ちょっと怪しげなお兄さんなどがいたが、夜は酒を飲みながら他愛もない話をして過ごすのが常だった。ある時、そのちょっと怪しげなお兄さんの一人が「人に迷惑をかけることなんて、何でもない」というようなことを言ったことに、僕はひっきり「なんで人に迷惑をかけていいんですか?」と、突っかかってしまった。そのお兄さんはちょっと困った顔をして、「いやいや、そういう話じゃないんだけど」みたいな、答えのような答えになってないようなことを言ってお茶を濁し、話を流してしまった。もうずいぶん前の話だが、その時のことは何かずっと心に残っていた。

「人に迷惑をかける」と「人に迷惑をかけない」ことの、どっちが良いかと言えば、その答えは明らかのように思える。そうでなくても僕たちは日本人だ。「人様に迷惑をかけないように」を念仏のように唱えて育てられてきた。」

X

感じたのだと思うが、今はそのお兄さんが何を言いたかったのか、少しわかるような気もする。

① ブフネラというアリマキ（アブラムシ）と共生している細菌がいる。アリマキは植物の害虫で師管液を吸汁して生きている。師管液には光合成に由来する糖分が多く含まれているが、タンパク質のもととなるアミノ酸はほとんど含まれておらず、アリマキは常に糖分過多である。ブフネラはそんなアリマキにアミノ酸を合成して与え、その代わりに過分にある糖をもらって生きている。ブフネラとアリマキの共生は細胞内共生という少し特殊な形態で行われており、アリマキは体内に菌細胞という特別な細胞を作り、ブフネラはほぼ一生をその菌細胞の中だけで過ごすことになる。彼らの共生の歴史は長く、共生生活を始めてからすでに2億年になると推定されている。2000年に日本人研究者によって、このブフネラのゲノム配列が決定されたが、その結果は驚くべきものだった。

ブフネラは私たちの腸内にある大腸菌と近縁の細菌だが、大腸菌と比べると持っている遺伝子の数が約7分の1になっていた。これはアリマキの菌細胞内での長い共生生活の間に、アリマキ側から提供してもらえないものは、自分で作る必要もないよねと、どんどん遺伝子を捨てていった結果と考えられている。私たち人間もたとえば結婚すると、それまで別々にもっていた洗濯機とかアイロンとか炊飯器とか、二つあっても仕方のないものがたくさん出てきて、人にあげたり捨てたりして処分することがあるが、それと同じようにブフネラは自分の遺伝子を次々と処分してしまい、気づけば2億年の間に遺伝子の数が7分の1になってしまったというところらしい。

しかし、そんなブフネラは当然もうアリマキと離れては生きていけない。大腸菌なら人の体内から外に出て、たとえば川でも池の中でも生きていけるが、ブフネラはアリマキの体から取り出すと、自然界では生きていけないし、人工的にどんな栄養素を与えても培養すらできない。自分ひとりでは外敵と戦うことはおろか、自分の細胞膜さえ作れないのである。大学でそんなブフネラの話を紹介すると、ブフネラはもう生物じゃない、という意見が出てくる。ブフネラはアリマキの体外

に出てひとりで生きていけない以上もうアリマキの一部であり、一人前の独立した生物として認めることはできないということだ。ブフネラの生態を考えれば、もっともな意見である。

しかし一方で、果たして「独立して」^② 生きている生物など、本当にいるのだろうか？ とも思う。 A 人間はどうだろう？ 私たちの食べ物は、野菜であれ、肉であれ、他の生物に依存^{いそん}している。実はアリマキと同じで、人間はアミノ酸のいくつかを自分で充分^{じゅうぶん}な量作ることができず、他の生物から摂取^{せつしゅ}しなければ生きていけない。人間は肉や魚といった食物からそれらを得ており、ブフネラのように特定の生物に依存しないと生きていけない訳ではもちろんない。ただ、改めて考えてみれば、依存する生物が生きているか死んでいるか、あるいは特定なものか不特定多数かといったことに、^③ 何か本質的な違いがあるだろうか？ また、人間は呼吸によって酸素を得ているが、それは陸上の植物や海の藻類^{そうるい}などが光合成をすることで生み出されたものだ。 B 食物にせよ、それに含まれるアミノ酸にせよ、呼吸のための酸素にせよ、それらはすべて他の生物の存在に依存している。

そう私たちは、牛や豚^{ぶた}やニワトリに、迷惑をかけながら生きている。それが私たちの本当の姿である。そしてそれは程度の差こそあれ、人間だけでなく現在この地球上に存在するすべての生物に共通する姿と言ってよい。たとえ他の生物を捕食^{ほしよく}することのない植物であっても、光合成に必要な二酸化炭素は、他の生物の呼吸によって大気中に供給されている。また植物の多くは菌根^{きんこん}菌という共生菌の存在がなければ、土から十分な養分を吸収することができない。決して「独立して」生きている訳ではないのだ。この世界は、すべてを完璧^{かんぺき}にこなし、他の生物の助けなど必要のない生き物たちが集まってできているのではなく、それ単独では生きていけない、不完全でいびつな生き物で溢^{あふ}れている。そして、それらがおたがい補い合い、つながって全体の存在を可能にしている。それが「生命」の本当の姿である。

そして人間社会^④もその縮図^{しゅくず}である。周囲を見渡^{みわた}せば、植物のように基本的には多くのことを自分でこなす独立型の人もいれば、他人の助けがなければ生きていけないような従属型^{じゅんぞく}というか、寄生的な人たちもいる。そんな寄生的な人たちは一般的^{いっぱんてき}に言えば「迷惑」な存在だろうし、自分のことくらい自分でやって欲しいと思うのが人情である。しかし、この世からすべての「迷惑」がなくなれば、より良い世界になるかと言えば、^⑤ 必ずしもそうではないと、今は思う。

日本では「人様に迷惑をかけないように」と教えられて育つが、インドでは「お前は人に迷惑かけて生きているのだから、人のことも許してあげなさい」と教えられるそうだ。それは社会というものが、そういった双方^{そうほう}方向^{ほうきやう}の「迷惑」を介^{かい}してつながっていることを教えてくれている。何かより豊かな世界観ではないだろうか。そうなのだ。もらう側に喜びがあれば、実は与える側にも喜びはある。親子関係などは、その最たる例だろう。その関係が強制や過度に一方的なものでない限り、「迷惑」がまったくない世界より、より豊かで喜びに満ちた世界が「迷惑」により生まれてくる可能性はあるのだと思う。あの怪しげなお兄さんはそういうことを言いたかったのだろう。

中屋敷均『わからない世界と向き合うために』より

* 師管液……植物の葉で作られた養分をふくむ液体。葉、くき、根などを通る管の中で運ばれる。

問一 本文中の X に当てはまる言葉として最も適するものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

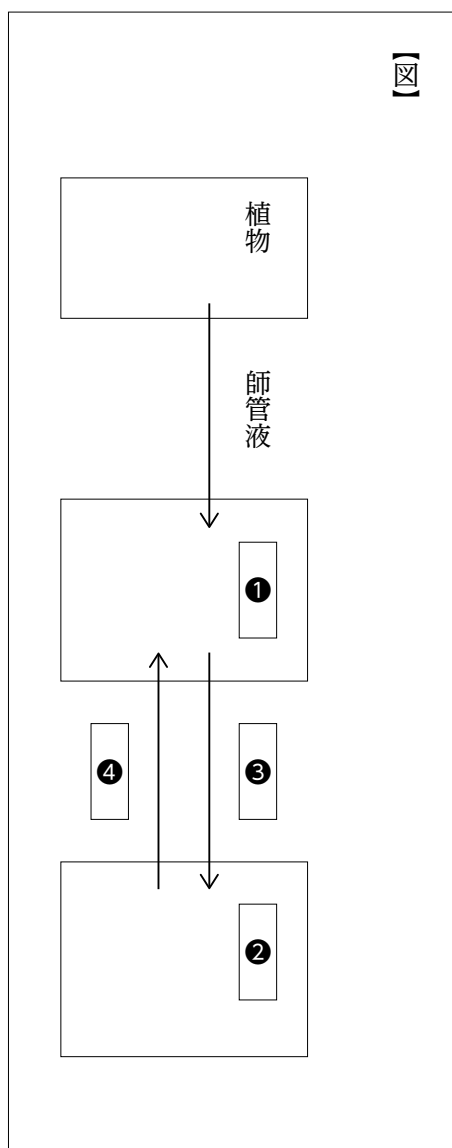
ア 人に迷惑をかけられても何とも思わない イ 人に迷惑をかけてきたことを何とも思わない

ウ 人に迷惑をかけない育て方を何とも思わない エ 人に迷惑をかけることを何とも思わない

問二 本文中の A B に当てはまる言葉として最も適するものを、次の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ しかし ウ たとえば エ さらに

問三 部①「ブフネラというアリマキ（アブラムシ）と共生している細菌がいる」とありますが、次の【図】は、そのブフネラとアリマキの関係を模式的に表したものです。このとき、① ④ に当てはまる言葉を、後の【語群】の中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



【語群】 ア 糖 イ 菌細胞 ウ アミノ酸 エ ブフネラ オ アリマキ

問四 部②「『独立して』生きている生物」とほぼ同じ内容を述べた表現を、これより後の本文中から二十八字で抜き出し、その最初と最後の四字ずつを答えなさい。

問五——部③「何か本質的なちがいがあるだろうか？」について、次の問いに答えなさい。

- (1) ここで筆者が取り上げ考えているのは、他の生物に対する依存のありかたにおけるブフネラと人間のどのようなちがいですか。説明しなさい。
- (2) ここでのちがいに對する筆者の見方として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ブフネラと人間の他の生物に対する依存のありかたには、本質的なちがいがあるかもしれないと考え、それを明らかにしようとしている。

イ ブフネラと人間の他の生物に対する依存のありかたのちがいが本質的なものであるかどうかと疑問に思い、それを読者に投げかけている。

ウ ブフネラと人間の他の生物に対する依存のありかたにはちがいがあるものの本質的なちがいではないととらえ、それを強く主張している。

エ ブフネラと人間の他の生物に対する依存のありかたは似ているが本質的にはちがうものだと見ぬいて、それを比べて論じようとしている。

問六——部④「その縮図」の「その」は生物界のどんな姿を指していますか。「という姿。」で終わるように、本文中の言葉を用いて五十五字以内で書きなさい。

「という姿。」は字数にふくみません。

問七——部⑤「必ずしもそうではない」と筆者が考えるのはなぜですか。最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 「人様に迷惑をかけないように」と教えて育てるのは日本だけであり、日本以外では人に「迷惑」をかけなければ生きていけないから。

イ 社会では、人に「迷惑」をかけたりかけられたりすることによって、人とのつながりやそれを通じた喜びさえも生まれることがあるから。

ウ 他人に助けってもらうのではなく自分のことは自分でこなして生きることによって、「迷惑」が自然となくなっていくのが望ましいから。

エ 「迷惑」が双方向的ではなく強制や過度に一方的なものだと、「迷惑」をかけられた人に重い負担を強いることになってしまうから。

三 次の1～5の対義語をそれぞれ漢字二字で答えなさい。

1	内容	↑	
2	短縮	↓	
3	許可	↓	
4	増加	↓	
5	収入	↓	

四 次の――部のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 孫のために学費をクメンする。
- 2 子どもがスコやかに育つ。
- 3 役者が舞台でコウジョウを述べる。
- 4 ソウバン困ることになるだろう。
- 5 サイシンの注意をはらう。

